

## 来年度へ向け運営体制を強化

- ◆ 須磨区会は、新しい運営体制で来年度に臨みます。
- ◆ 定例委員会を設置し運営機能の中心におきます。
- ◆ 組織的な運営により区会長への業務集中を解消します。



- ◆ 定例委員会は3つのグループで構成します。
- ◆ 総務グループは区会全般にわたる業務を担当し、メンバーに新しく副区会長を加えます。
- ◆ 地域への貢献と会員のつながりの2グループは、それぞれの分野で活動を推し進めます。
- ◆ 委員は来年度の発足までに選任します。

## 運営体制(案)が決まるまで

◆ 5月、須磨区会が当面する次の課題について下記の6人で検討を始めました。

- ① 区会長が交代しやすい環境を整える
- ② ボトムアップのしくみを作る

細野恵久(区会長・3・白川台)・ 田路義弘(わ元副理事長・生17・高倉台)  
 川部忠夫(わ監事・福20・竜が台)・ 平松 一(わ前理事・生20・北落合)  
 梶山 耿(国20・菅の台)・ 真川俊雄(わ現理事・福21・南落合)

- ◆ 定例委員会の設置を最初に決めました。(右欄参照)
- ◆ 委員選任は組織編成を前提として決める必要があり、次に組織について検討しました。
- ◆ その結果、6つの地域ブロックに分ける組織案を採用しました。地域内のつながりを期待したためです。

### 第1回ヒアリング

- ◆ 7月10日、ヒアリングを実施、案内した会員30人のうち12人の出席を得、素案を説明して意見を求めました。
- ◆ 多くの出席者から地域ブロック分けに反対または消極的意見が出されました。つながりの動機にとぼしく、まとまりが期待できないという理由です。
- ◆ これと別に**現在の活動に即した委員会**でスタートするほうがよい、という意見が出されました。
- ◆ 多くがこれに同調し、提案者も受入れて構想を再考することにしました。



### 第2回ヒアリング

- ◆ 8月28日、第2回のヒアリングを行ないました。出席者は12人、うち5人は第1回にも出席した方です。【写真】
- ◆ 現行の区会活動を目的・機能により6グループに分け、それぞれの代表者を委員とする案を提示しました。
- ◆ これに対し委員会を**発足させることが先決**、組織区分は大括りにしておき経過をみながら見直せばよい、などの提言を受けました。
- ◆ 以上の過程を経て運営体制の成案を得ることができました。ご多忙のところヒアリングに応じてくださった方々にお礼を申し上げます。

## つながり活動を促進

- ◆ 下表は6年前の《区会だより16号》に掲載した《つながり活動》の比較表です。
- ◆ 総会または総会に代る定例委員会を設けていないのは須磨区会だけであることが判ります。この状態は今まで変わっていません。
- ◆ 定例委員会が設置されれば風通しとボトムアップが進むと期待されます。

2013年10月現在

	東灘	灘	中央	兵庫	北	長田	須磨	垂水	西
総会	○	○	○	○			○	○	○
定例委員会		○	○		○	○	○	○	○
定期区会報					○		○	○	○
旅行会・見学会				○	○		△	○	○
屋外レク・競技会	○	○	○	○	○	○	○		○
屋内の親睦会	○	○	○		○		○	○	○
同窓会との連携								○	
在校生との連携	○								○
特定チーム活動							○		

- ◆ 《つながり活動》そのものは内向きのため地域に貢献しませんが、つながりによって貯えられた内部エネルギーは外向きの活動に転換されて地域に貢献することができます。
- ◆ 一方、地域貢献活動のなかでつながりが育てられることも確かです。
- ◆ 須磨区会は、内向きと外向きの両方向の活動を平行して進めていきます。

## 連絡網を整備

- ◆ 運営体制の運用に情報の伝達は欠かせません。
- ◆ 情報のうち、特定の内容を特定の相手に伝達する場合を除き、広く早く確実に伝達する必要がある情報のため連絡網を整備します。
- ◆ 小学校区毎に伝達ルートを設定し一斉に配信する基本構想をもとに細部を決めていきます。

小学校区別会員数 2019年9月現在

